

企業研究

日本電信電話 (NTT東日本/NTT西日本)

2006年度末で608万契約。2010年の3000万達成はNGNが鍵を握る

2007年は純増340万を目指す

NTT東西が2001年8月より「フレッツ光」の本格提供を開始して以来、2006年度末にはついに「フレッツ・ADSL」の契約数を上回った。2006年度末のフレッツ光契約数は、NTT東西の合計で約608万。FTTHの全国事業者別シェアは1.5ポイント増えたものの、目標契約数の610万にはわずかに届かなかった。

一昨年に比べると光へのシフトが減速傾向にあるが、2007年の目標契約数は、東が540万（前年比200万増）、西が407.7万（前年比140万増）。全体

で2006年から1.5倍強の契約数を狙う攻めの姿勢を続ける。

マンション加入と映像サービスを強化

2006年度の主な動向の1つは、NTT東の首都圏におけるマンション向けの販売強化が挙げられる。2006年4月には1Gbpsアクセスの「プラン2ハイパー」および6ユーザー以上の契約が見込まれる集合住宅向けの「ミニ」の提供を開始、電力系NCCらとの競争が比較的弱い既設集合住宅でのユーザー獲得に注力した。

また、販売受付体制の充実・強化を図り、申し込みからサービス開始までの期間短縮や、土日祝の工事費の値下げなど、東西各社で導入時のサービス向上にも努めた。

トリプルプレイサービスの普及・拡大に向け、2006年1月にスカパーフェクト・コミュニケーションズの100%子会社オプティキャストとNTT東西の3社で新会社を設立、多チャンネル放送と地上波/BS放送（デジタル放送含む）の再送信サービスをフレッツ光の映像メニューに組み込んだ。スカパー!グループは有料多チャンネル放送で約400万の加入者を擁しており、2010年度までには「スカパー!光」の加入者数を800万にしたいとしている。

資料4-1-13 フレッツ光のトリプルプレイ概要

	サービス名	方式	月額
ネット (東日本)	ハイパーファミリー/ニューファミリー(ホーム)	100M/1Gアクセス	7,833円
	プラン2/プラン2ハイパー(マンション)	100M/1Gアクセス	4,126円 ^(*)
ネット (西日本)	ファミリー100タイプ	100Mアクセス	7,959円
	フレッツ・光プレミアム(ファミリー)	1Gアクセス	
	マンションタイプ	100Mアクセス	4,305円 ^(**)
	フレッツ・光プレミアム(マンション)	1Gアクセス	4,410円 ^(***)
電話	ひかり電話(基本プラン)	0ABJ番号	525円
テレビ ^(*)	スカパー!光バックセレクション(ホーム)	アナログ、地デジ、	3,990円
	スカパー!光バックセレクション(マンション)	BSデジ ^(*) 、CS50ch	3,675円

NTT東西各社資料より作成

(*) プロバイダーにOCNを選択した場合（ただしプロバイダバックを利用しない）。ドットフォン（IP電話）付プランの場合

(**) 小数点以下は切り捨て

(**) 同一の集合住宅などで16件以上の契約が見込まれ、VDSL配線方式の場合

(*) 他に、4th MEDIA、OCNシアター、オンデマンドTVも選択可能

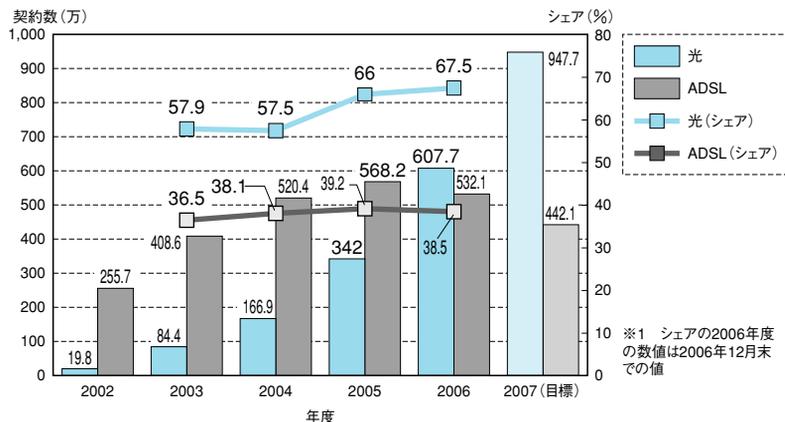
(*) BSデジの利用にはコンバータ利用料263円/月が必要

NGNが光需要の喚起となるか

2006年度末のアクセス網の光カバー率は東が88%、西が87%となった。2007年度末にはさらにそれぞれ90%、88%に引き上げる。そのための光ケーブルの整備には昨年度よりもさらに資金を投じ、東が320万心km、西が90万心kmにまでする計画である。

NTTは2004年11月の中期経営戦略で「2010年光アクセスサービス3000万契約」という目標を掲げた。和田社長は2007年5月の記者会見において「3000万という旗をおろす考えはなく、これに向けて最大限努力していきたい」と語っている。動画共有やスポーツ中継など、映像系のサービスが拡大してきている背景があり、NGNのプラットフォームサービスと組み合わせた新たなビジネス展開をしていきたいとの考えを明らかにしている。光需要の牽引役となるNGNサービスとは何か。2007年度下期に予定されているNGNの商用サービス開始が待たれるところである。（柏木 由美子）

資料4-1-14 フレッツ光・ADSLの契約数の推移



総務省資料およびNTT東西各社発表資料より作成



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp